第 197 号　令和 5 年 10 月 23 日発行

中田かわら版　11 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会　　協力：中田連合自治会　泉区役所
制作：中田かわら版制作編集委員会　　横浜市踊場地域ケアプラザ

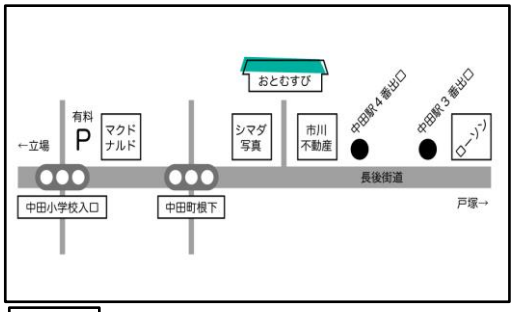
音楽で集い多世代が交流

～指導に音楽療法士も活躍

音楽スペース「おとむすび」代表　小柳玲子さん（寄稿）

「音楽スペースおとむすび」は、2019 年春に活動を始めた小さな活動拠点で、地下鉄中田駅からすぐのところにあります。音楽療法の考え方を背景に、「人と音楽を結ぶ」「音楽で人を結ぶ」というコンセプトに沿って、誰でも参加できる歌声サロンや楽器のサークル、ミニコンサートなどの音楽活動を定期的に行っています。
音楽を聴いて気分転換をする、カラオケで歌って発散する、スポーツの応援歌で盛り上がる、などの経験をお持ちの方は少なくないでしょう。音楽療法は、こうした音楽が心や身体に働きかける作用や、人と人を結びつける力を、健康やウェルビーイング（よりよく生きる）のために活かしていく対人援助技法です。現在、リハビリや高齢者施設、教育現場、また緩和ケアなど幅広い場所で実施されています。立ち上げから「おとむすび」には、病院や施設等で働く現役音楽療法士が多く関わって活動してきました。

例えば、第 1 木曜日午後の「すこやか音楽クラブ」では、フレイル予防（介護予防）を目的に音楽を使って軽体操や脳トレなどを楽しみながら行っています。第 3 金曜日午前の「ルアナアイナ」では、生の楽器で五感に働きかけながら小さい子どもと保護者のふれあい遊びを行います。他にも第 2 日曜日は「結うカフェ（認知症カフェ）」、毎週金曜日は「寺子屋うんたった（子どもの居場所と学習支援）」、その他ウクレレや三線、鍵盤ハーモニカなどの楽器のサークル、コーラスなど、たくさんの企画が用意されています（詳しくはホームページをご覧ください＝ＱＲコード）。音楽好きの方はもちろん、障がいや様々な生きづらさを抱えた方、地域に居場所を探している方など、多様な人たちが音楽という切り口で場を共にすることで、お互いを知り合う出逢いの場となることを願っています。音楽で健康づくりと仲間づくりを！どうぞ是非一度のぞきにいらしてください。**（こやなぎ・れいこ）**



左のＱＲコードよりＨＰをご覧ください。
住所：中田東 3 丁目 2-13

【訂正】10 月号の「ベルガーデン水曜クラブ」の記事で、筆者の肩書きを「恵泉女子大学准教授」と記しましたが、正しくは「恵泉女学園大学特任准教授」でした。お詫びして訂正します。

記事にある情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ　嶋（しま）まで問い合わせください。
TEL　801-2114　FAX　801-2923

■「中田むかしの話」<6>

宇田川 ― 正しくは村岡川である

元泉区歴史の会会長　　宮本　忠直著

中田には川と言える程の流れや川の情緒のあるものはないが、大雑把に言って北部の丘陵地帯を水源としている五筋の流れがある。その象徴的な流れの一筋が御霊神社の弁天池を源流として中村、広町、中西、下村、中下、山百合、若草、高砂苑、戸塚苑、春日会の集落を流れながら他の四筋の流れを受けて、やがて深谷の「まさかりが淵」に通じている。それを行政では宇田川と称しているが正しくは村岡川である。以下その理由。

明治初期に時の政府が調査した「皇国地誌」を見ると、汲沢村の項に「村岡川　源ハ本村西北ノ方中田村山間ニ発シ・・・」とあり、深谷村の項には、「村岡川本村ノ東ノ方汲沢村ヨリ来タリ・・・」とある。

ところが、上俣野村の項には「宇田川　東ノ方深谷村ヨリ来タリ東南境ヲ限リ・・・」とあり、東俣野村の項にも「宇田川　北方上俣野村ヨリ来タリ・・・」とあって、境川に合流するまでの上俣野村と、東俣野村を流れる部分のみ宇田川と言っていたことが分かる。

従って俣野分の下流では宇田川でも深谷、汲沢、中田では村岡川と呼ぶのが正しいということになる。このことは地域の歴史を検証するうえで大変大事なことであるから、行政当局は一日も早く宇田川は俣野までで深谷、汲沢、中田では現在使っている宇田川という川の名称を「村岡川」と変更すべきである。

行政的には「宇田川」！？　　神奈川県の見解

「村岡川愛護会」副会長の前田重一氏が平成 14 年（2002 年）9 月 17 日、泉区長宛に「河川名変更について」文書で陳情している。その時の神奈川県の正式回答が下記のとおり。

<注>当時の横山　悠区長が前田氏に転送。

（要約）「昭和 46 年、神奈川県が管理する 2 級河川として指定した際、法の規定に基づき横浜市長の意見を聞いたうえ、その名称を「宇田川」として公示した。名称を変更する場合は 2 級河川の指定手続きと同様に、河川管理者の神奈川県知事が関係市町村長の意見を聞いたうえで変更、公示することになる。また関係市町村長が意見を述べるにあたっては市町村議会の決議を得ること、流域住民の合意を十分に図ることが必要である。（中略）単なる呼び名ではなく公示されている名称の「宇田川」を変更したいという場合は、地域の皆様や市におきまして合意形成を図っていただくことが必要と考えております」。

なお、横浜市下水道局が発行した『横浜の川』（平成 11 年 3 月発行）を載せている（全文）。かつて宇田川は村岡川と呼ばれていた。村岡は地元の郷の名で、大正時代に川下に堤を設けた宇田氏の功績を讃えて宇田川名が生まれた」。

「中田の 12 橋」を挟んで広中橋（下村）と汲沢中学校近くの中田橋の欄干には今も「宇田川」の銘板がしっかりと着けられている。　　宮田　貞夫

編集後記

10 月 1 日付で、総務省が実施する「令和 5 年住宅・土地統計調査」があった。我家が、確率 17 分の 1 の無作為抽出の調査対象に大当り。泉区誕生の年から県・市の統計調査員としてほとんどの調査に関わらせていただいたことを思い出す。調査票のお届け、回収が大変であった。「夜討ち、朝駆け」で走り回った。時代は変わり、今は、郵送、インターネット回答が可能になりよかったと思う。調査結果は、大事に運用していただきたいと、切に希望する。　　小島敏子

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会
委員長　宮田貞夫　　編集長　松本 正
編集委員；山木重樹、小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋　宏之